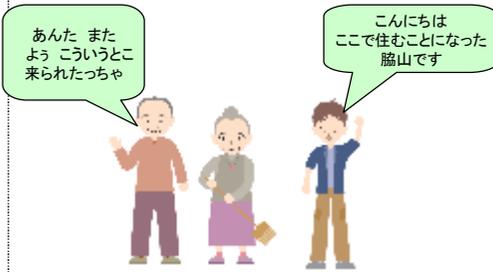


# 笹川だより

第2号は、ライフスタイル特集として、新しく笹川に移り住まれた方々に寄稿して頂きました。

また、インターネット【共生の里 笹川】に掲載しています、花逍遙の山小屋および炭焼きクラブについても掲載しました。

## 一 脇山 考史 さん



「あんた また よう こういうとこ 来られたっちゃ」  
笹川に移住してきたと地域の人に説明すると、物好きもいたもんだといった具合に、まるで珍獣の顔でも覗き込むような様相をする人がいます。

父親が朝日町の出身だったので、幼少のころから年に一度は朝日町を訪れていました。  
これまで、神奈川県川崎市という都市消費型生活の一角とも呼べる場所で、時間に忙殺されるような日々をおくるにつれ、海、山、川が近接した朝日町の景観は抜きがたい憧憬となって、しばしば明滅出没するようになりました。

特に笹川の佇まいは、海からもさほど離れていないのに、里山の顔つきもあると言った宝石箱のような地域です。

貨幣や時間の奴隷のような生活から脱却して、新たな暮らし向きを創出していくには唯一無二の桃源郷。移住に勢いは要りませんでした。

今は日々、家に手を加えながら、蛇口をひねってほとばしる水の甘みに陶酔したり、おびたしいカメムシの群れに辟易したりしながら、これからこの土地で暮らしていくための準備をしている段階です。ぼちぼち仕事も探していきます。

この原稿を書きながら耳を澄ますと、聞き覚えのない幾つかの野鳥のさえずりが聞こえてきます。「こういう とこ」だから来たんです。

(脇山さんは、2010年1月から、元、清六に居住)

## 一 山本 季生、さとみさんご夫妻

笹川1年生

山本季生

2009年の2月より笹川に住み始めて、早くも1年が過ぎました。ここではどのようにしてここに住むにいったか、ざっと書いてみたいと思います。

住むためのきっかけは妻がいただいたことですが、その場所を富山のどこにするかというのは、いくつか考えました。私の中での条件は大きく4つありました。それは、1:自然豊かな山が海に近い場所である。2:交通や、生活のためのインフラ(駅や高速IC、スーパーや病院や学校、仕事の場所など)が比較的近く、整っている。3:地形的に災害に強い場所。4:古くても本物の素材で作られた建物である。でした。

この候補に当てはまった地域は、上市町から魚津市、黒部市、入善町、朝日町でした。その中で、上市と朝日のここ笹川の2カ所が条件が揃っていました。しかし、都市部とは違い、不動産業者などでは情報などなく、町役場ではさほど転入者の受け入れに積極的でもないのが実際に、夏から晩秋までの山での仕事が終わった初冬から、現地に何回も赴き、空家を村の方に聞いて回りました。きっとそのころには、どこでもそうだと思いますが、うさくさいやつが来ていると思われた事でしょう。他の町では何カ所か見つかりましたが、出来れば笹川で住みたいなあの思いが通じたか、偶然の縁もあり、何件かの内で、今の家を借りた事ができました。



住まれていた方が出て行かれてから数年経っていた事もあり、外や水回りなどはかなり痛んでいましたが、妻がインドでヨガの勉強をしている間、私はまずは不要になった荷物を片付け、

すこしづつ直しつつ今に至っています。今の新しく便利できれいな建物ではありませんし、そういったものに関心もありません。この家は、その場に生えていた木で、その場所で製材、乾燥し、材として刻み、組まれた建物で、木と石と土でそのほとんどが出来ています。時間はかかりますが、数十年前にはそうであったように、なるべく昔のままの工法で、手を入れて、よりよい形に直して行ければと思っています。

笹川に住んでからわずかな間にいろいろな事や出会いがありました。とても大きな出来事は、家を借りる縁を結んでいただいた方が昨年秋に他界されてしまったことです。あまりに突然で、とても悲しい事でした。しかし、そのことは私たちがこの土地で住む事により真剣になった事も事実です。

まだまだ知らない事だらけで、村の人たちには教わる事ばかりなのですが、前向きに吸収して行きたいと思っています。若輩者の二人ですがどうぞ宜しくお願いします。

(元、利平エドんに居住)

あこがれの?!山里ぐらし

山本さとみ

私の笹川移住後はじめての冬は、数年来の大雪であつたらしく、「やっぱり北陸の冬は半端じゃない!」と、これからの新しい土地での生活に身が引き締まる思いでした。それでもわずかな晴れ間の時に家の周りを除雪していて、ふと手を止めた時の静けさ...雪をまとうた杉の木立の美しさは私を笑顔にしてくれました。

「山に近い所で古民家を借りたい!自然に近い暮らしがしたい!」そんな私の要望に応えるべく夫が2人の新しい生活の場としていくつかの候補地をあけてくれました。その中の一つが笹川でした。県外出身の私達ですが、縁ありまして富山県で仕事をさせていただくようになり、早7年、私は剣岳登山のベースキャンプ、剣沢管理所で山岳警備隊の食事を作ったり、黒部峡谷の山小屋の手伝いをしていました。そんな折、知り合った朝日町小屋の清水ゆかりさんのお宅に伺いました。はじめて泊の町からトンネルをくぐって笹川に入った時の第一印象「きもちいいー!!」そしてすぐに直感的に「ここがいい!」と思いました。



皆さんにいろいろ教えていただきながら、ようやく落ち着いてきた笹川での暮らし...まず一番にうれしく思うのは、地域の人とのおつき合い、それは伝統を受け継ぐことでもあるということです。この冬はたくあん作り、味噌作りを教えていただきました。村のお母さんたちと一緒に作業することの楽しさ!作業の合間のお茶のときには、方言こそ分らない所もたくさんありますが、次から次へと現れるお母さんたちの友達はみんな明るくて、とても温かい時間でした。自分が母からは教われなかった手作りの保存食作り。今は実の母も笹川に行って習いたいと言っています!

「なんでも体をまわせばおいしくなるんだよ。」という村のお母さんの言葉には頭が下がりました。こういう事が、本当の暮らしの知恵、ひいては日本の伝統的な暮らし方なのかもしれません。ゆっくりだけど忙しい日々の暮らし。すべてのペースは、自然の恵み次第。村のお母さんたちは本当に料理が上手で、よくおかずにいただきます。笹川に来てから、私たちの食事での会話は「おいしいね。おいしいね。」「幸せだね。」「ばかりになりました。なんと幸せなことなのでしょう!ちゃんと味わう為にTVも見ません。そういう事が出来る事がまたうれしいのです。ここに来てから本当においしいと感じるものを食べてるねと二人でよく話しています。

そして、私が笹川に来て、もうひとつうれしく思っている事は、ささ郷でヨガ教室をはじめさせていただいたことです。昨年末より婦人部の皆さん、体協の方々から支援していただき、20人ほど集まっていただけのサークルになりました。私自身は顔見知りの方が増えて、皆さんとの会話も弾むようになり、今は週に一回、皆さんの顔をみて一緒に過ごす事が楽しみになっています。また、皆さんの体の変化(やわらかくなったなど)に気づくのがうれしいのです。

この4月から、私は仕事では山には登らず、地に足をつけた?生活を始めます。私自身ヨガをもっともつと深く、笹川でヨガを続けることを大切にしていきたいと思っています。最近、私は介護の勉強をはじめました。近年、100歳寿命と言われる世の中になりつつありますが、そのなかで、50歳からの暮らし方が重要になっていると言われてます。ここで私がヨガを続ける事が、何年後かには、介護が必要ない元気な地域になるきっかけになれば良いかと思っています。



今後は、できれば、村のお父さんたちにももっとヨガに参加してもらいたいと思っています。  
【ささ郷】のような気持ちのよい施設があつて、私もとても幸運でした。ありがたうございませう。  
東京笹川会の皆様もご帰郷の際は、ヨガサークルを覗いていただけたら、うれしいです。  
これからもどうぞ宜しくお願いします。

ー稲村 亮二さんー

東京笹川会の皆様はじめまして稲村と申します。  
 笹川地区には、平成17年11月に妻との結婚を機に  
 入善町より笹川へ参りました。  
 私も妻も自然が大好きで、夏にはバーベキュー、秋  
 には紅葉と胸を膨らませ移住してきました。  
 現在、私は(30歳)、妻(30歳)、長男(3歳)、長女(3ヶ  
 月)の4人で生活しています。

笹川生活は、猿や時にはカモシカも熊も出るまるで  
 笹川サファリーパーク冬は雪深く、大変な面もありま  
 すが、都会では味わうことの出来ない自然との共存を  
 楽しんでおります。

毎日が、育児、家事、仕事と忙しい日々ですが、空気  
 がおいしく景色も良い、この大自然笹川に癒され、パワ  
 ーをもらいたがらばろう!と思うことが出来ます。  
 先日、笹川陶芸センターにて子供の手形入り皿を製  
 作し一生の記念になる作品ができました。  
 東京笹川会の皆様、人よく、住み良い笹川へぜひ  
 ひ帰省してください。(元、キョウムに居住)



ー城川 淳さんー

第三の旅立ち (きかわ きよし)

バブル経済がはじけ、自らの会社も立ち行かず  
 破綻。

全てを整理し終わったとき、頭の中を過ぎったのが、  
 ふるさと立山連峰の雄大な山並み、緑あふれる  
 樹木や田園の風景、大波打ち寄せる日本海の荒波  
 【そうだ、富山に帰ろう】と都会の生活に終止符を打  
 った。

平成10年12月、暮れも押し迫る寒い冬至の中、  
 富山県人でありながら地名さえ定かでなかった朝日  
 町へ移住した。  
 そして、生活の基盤を立て直すのに5年、なんとか生  
 活出来る状態となった平成16年、笹川で古家(六郎  
 ザイドン)を得、笹川での生活がスタートした。



理由があった...これから、年をとるだけで収  
 入を得ることもままならぬ人生をどう過ごすか？  
 地域に関わり、人と交わり、自然や田畑に親しめる  
 生活。それを与えてくれたのが笹川であった。

川の流れ、広々と広がる田畑の情景から、今まで  
 味わったことが無かった感覚を肌身で感じた。そして、  
 空気さえも新鮮に思われ思わず大きな深呼吸をし  
 た。



長年空き屋になっていた古家の修繕改装には、笹  
 川に来て得た多くの友人が惜しみなく協力してくれた。  
 地域の集会、イベントに参加、人足作業など額に汗  
 する生活にも満足感を覚え、友人や隣人との交流を  
 深めていく中、次第にこれからの老後の生活に意欲  
 が増えて来た。  
 今は、笹川の自然と人々に活力を受けながら充実感  
 を味わう日々を過ごしている。

ー花逍遙の山小屋 小林 茂和さんー

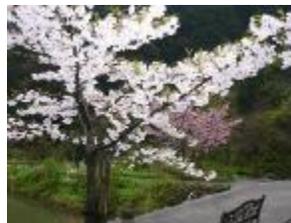
(インターネットHPに掲載)

茂和さんが、親代々が農耕を営んでこられた年中谷  
 (ねんじゅうたん)の休耕地を活用して造りました。

定年を間近にしたとき、定年後、どのような生き方を  
 するか奥様と相談した結果、二人の趣味が一致した  
 【花とのふれあいが出来る生活】が決め手となり、平成  
 11年に着工、まず外回り大小の池が平成14年秋に、  
 母屋が平成15年春に、そして傑作の四阿(あずまや)  
 が平成16年雪が降りそうな12月に完成しました。  
 材料の調達・製作は、すべて個人および友人達との  
 手作り、敷地は約600坪あります。



敷地内には、母屋、四阿(あずまや)、  
 バーベキューコーナー、厠、そして土地  
 の起伏を生かして造られた大小の池な  
 どがあり、その廻りには数多くの草木  
 を植えて花逍遙の出来る山小屋となっ  
 ています。



補則：  
 第一の人生(18歳までの富山での生活)  
 第二の人生(19歳～60歳までの都会生活)

【編集後記】

【笹川だより第2号】をお送り致します。  
 第2号は、ライフスタイル特集として、新しく笹川に移り住まわ  
 れた方々にそれぞれの生き方の一端を紹介して頂きました。  
 寄稿頂いた皆様に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。  
 また、インターネット【共生の里 笹川】に掲載しています、花逍  
 遙の山小屋および炭焼きクラブについても掲載しました。

小生も、昨年11月から知人の【なかんざわの山小屋】(三峯の  
 少し下)を借用し、そこを拠点に、笹川の散策、立山連峰、後立  
 山連峰への登山などを始めました。  
 これからも仕事の都合をつけて毎月1週間ほど滞在することに  
 しています。

インターネットに【共生の里 笹川】ホームページのアドレス  
<http://www.ubique.dynalias.com/~sasakawa/>  
 次号は7月、【自然とのふれあい】で里山三山と滝めぐりを予  
 定しております。

(長井清武 記)



昨年の秋祭りに集まった友人、東京笹川会、およびTV局の人々(家主は写っていません。)